

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 岡村晃子	(学部)経済
1 重要事項 平成 28 年度は論文口頭発表が 2 件 国際会議での論文発表 Akiko Okamura (2016a). Change in the use of English and the Japanese life style over thirty years as seen through the analysis of house plans. 37th International LAUD Symposium at UNIVERSITÄT KOBLENZ LANDAU, Landau, Germany. Akiko Okamura (2016b). English spoken by Japanese students: its intelligibility for four cohorts of evaluators, Applied Linguistics Association of Australia Conference, Melbourne, Australia. 学術論文出版：平成 28 年度は上の 2 点の論文が投稿過程。 学外からの研究費への研究報告書作成 平成 27 年度ぐんま国際教育財団の語学研究実践部門助成金【30 万円】への報告書を作成。この調査のタイトルは【英語を話す練習用のグループワークを通して語彙及び文法の運用能力を向上させる試み】で、英単語を英語で説明することで語彙、文法力を伸ばすことを目的とした。この研究の延長線上で、平成 28 年度は 27 年度の問題点を考慮して、英語の説明を考えさせるより、教員が提供する形とした。またグループでのクイズ的な要素も入れて授業で実施した。アンケートの結果とみると、27 年度と比較して、28 年度は学生には好評を得る形となった。29 年度も改良を加えて取り組んでいきたい。 獲得した研究費 学内競争的研究費【高崎経済大学特別研究費 50 万円】を受ける。 平成 28 年度グループ活動を通して英語学習への意欲を伸ばす研究への研究 2008 年から実施してきた Task-based のグループ活動に基づく授業がカリキュラム改革により終了することで、経済学部 500 人程の学生への英語学習とグループ学習への意欲を入学時、前期、後期終了時へのアンケート、1 年間に 6 回の Dictation test により調べた。結果は現在分析中であるが、500 人程の学生の学習意欲と英語力についてそれぞれの学生の変化を見る 1 年間の longitudinal study はまだ数が少ない。その意味でも学生の意欲、英語を話すグループ活動、英語への興味がどのように影響し合っているか調べることは意味深い。	
2 その他の事項 以下の学術雑誌、書籍出版への査読者としての貢献 学術雑誌 English for specific purposes 37th International LAUD Symposium に基づく書籍 研究論文作成へのデータ収集 City University of Hong Kong と Stockholm 大学の学生から日本人学生の英語スピーチへの評価を集める。この研究は日本人の英語発音の問題がどのような点での理解を妨げる要因となっているか調べることを目的としている。将来的には今まで集めた、台湾	

人、アメリカ人大学生、英語を母語とする英語教員、日本人英語教員の評価と比較して世界語としての英語の視点から分かりやすい英語についてどのような指導が必要か提示したい。

英語科目での取り組み

選択科目の一つ Academic skills で、インターネット上で視聴できる TED Talk を取り入れて、授業の課題として聴衆の理解、共鳴を得る話し方の分析を実施してきた。短いスピーチとは言え、それぞれの話し手が工夫を話し手と聞き手という関係を考えて、話し方を考えていることを学生自身がまとめることを実施した。この経験は学生にとって、英語だけでなく、日本語にも言えることで発表力向上に役立ったと思える。

3 次年度以降の計画・抱負

平成 29 年度から大学レベルで英語カリキュラム改革を実施される。これは英語教員全員が関わる大掛かりの変革で、英語力のなかでも、特に話す力を伸ばすことを目的としている。この試みの評価として、どのくらい英語を話す意欲、英語力が高まってきたか担当するクラスの学生に調査ができればと思っている。